

## 新年の幕開けを祝う賀詞交歓会

城里町最初の新春賀詞交歓会が、1月6日にコミュニケーションセンター城里で開催され、町内各界からの代表者約200名が出席し、平成18年の幕開けを祝いました。

金長町長は「新しい年も厳しい財政事情の中ではあるが、合併調整項目の整理を進め、特に道路や上下水道の整備、消防署所の設置などの事業に気を引き締め取り組んでいきたい」とあいさつ。続いて関谷町議会議長、石川県議会議長が年頭のあいさつを述べました。参加者たちは交流を深め、新しい年の飛躍を誓いました。



## 消防出初め式

新春恒例の町消防出初め式が、1月8日、常北中学校の校庭を会場に行われました。午前9時からの式には町消防団員など488人が参加。勇壮な分列行進を披露しました。また、消防庁長官表彰の伝達をはじめ各種表彰が行われ、消防活動への協力者や長年活動を続けた消防団員など185人に、表彰状や感謝状が贈られました。



## 税に関する標語で最優秀賞

### 常北中 大津賢一くん

『僕らの税 優しい社会の 糧になれ』

「平成17年度税に関する中学生の標語」の部外有識者による選評で、常北中学校3年生の大津賢一くんが選ばれ、1月16日に中学校で表彰式が行われました。

この部外有識者による選考は、今年が「税に関する中学生の標語」募集開始40周年の節目にあたることから初めて行われました。大津くんの作品は、関東信越国税局管内で応募のあった標語25万4072編の中から、優秀作品として国税局長賞に選ばれた作品をもとに、作家の立松和平氏によりさらに5編に絞り込まれた作品のひとつです。

立松氏は「税金というのは、収入の多い人からたくさん徴収して、立場の弱い人のために役立てるといった側面があります。つまり優しい社会をつくるための制度でもあるのです。そのことを何気なく気付けさせてくれます」と選評。見事優秀作品に選ばれた大津くんは「この標語は、国民が納めている税金、また将来自分たちも払う税金を、むだに使われたくないという気持ちで考えました。まさかこのような賞に選ばれるとは思っていませんでしたのでとても嬉しい」と喜びを語ってくれました。



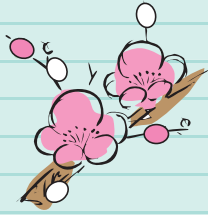
写真左から飯村校長、大津くん、伝達に訪れた中島水戸税務署長

## 福祉作業所 まゆ玉づくり



城里町障害者福祉作業所で、1月11日にまゆ玉づくりを実施しました。まゆ玉は、木の枝にまゆの形にまるめた紅白の餅や米の粉の団子をつけたものです。養蚕の盛んな地域では、1月14日から16日までの小正月にまゆの豊作を願って飾られています。

は白で餅つき。そして赤白緑黄とカラフルに色づけされた餅を、枝いっばいにつけていきました。通所生の方はとても楽しんで行い、きれいな飾りつけができました。そして、作業所の畑の豊かな実りと、みんなの健康や安全を祈りました。



## 生涯学習 コーナー

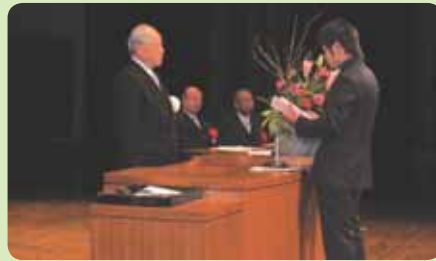
### 二十歳の門出を祝う 城里町成人式

1月8日(日)コミュニティセンター城里において、城里町初めての成人式典が厳粛に開催されました。今年の新成人は363名で、新成人で構成する実行委員会が企画・運営しました。

式典では、新成人の出席者289名を一人ずつ紹介し、金長町長が「生まれ育った郷土城里町を愛し、大人としての自覚と信念を持って自分の夢と希望に果敢にチャレンジしてください」と式辞を述べました。

新成人を代表して実行委員長の小松崎翔さんが「今までの20年間、深い愛情で包んでくれた両親、絶えず励ましご指導くださった諸先生、先輩方に感謝の心で一杯です。成人者としての責任と使命を深く認識し、強い意志を持ち続け、常に前を向き前進していきたい」と、誓いの言葉を力強く述べました。

式典後、色とりどりの振袖やスーツに身をまとった成人者が、久々の級友たちとの歓談や記念撮影をする様子は、見ていて微笑ましいものでした。



### 第2回 家庭教育学級開催

12月10日に七会公民館において第2回家庭教育学級が開催されました。

今回は、「生活の中で人権を考える」と題して中原昭氏を講師に迎え実施されました。

中原先生は「現在は親が子どもを、子どもが親を殺害するなど人権が尊重されないどころか人権がなくなってきた」と話されました。また、家庭内においても家族の人権を無視した発言が多いことを指摘されました。

参加された方の一人は「もう一度家庭内での家族の人権を考え、子どもの前での夫婦の会話に気を付けたい」との感想を話してくれました。

